

発行：熊谷市立江南文化財センター

## TOPICS

### 平成 25 年度の発掘調査件数が過去最多

25 年度は、平成 26 年 4 月からの消費税増に伴う影響で開発が多くなり、それに比例して発掘件数も多くなりました。個人住宅の発掘は 7 件、分譲住宅等は 3 件、区画整理等で 5 件の総計 15 件となりました。これらの他、前年度からの継続事業としてスマートタウン造成事業に伴う発掘がありました。年間における発掘調査（本調査）の件数は、記録が残る昭和 53 年以降の埋蔵文化財保護事業において最多となりました。



それらの内訳をみると、個人住宅は 8 月から広瀬地内の不二ノ腰遺跡、9 月には上之地内の前中西遺跡、9 月下旬からは永井太田地内の北廓遺跡、さらに 10 月下旬には彦松西遺跡、そして年が明けて 1 月には下川上地内で北島遺跡を 2 箇所調査しました。分譲住宅等においては、4 月には中西三丁目地内の前中西遺跡で 11 棟分を、5 月に広瀬地内の不二ノ腰遺跡で住宅 2 棟分を、そして 1 月には広瀬地内で石原古墳群、不二ノ腰遺跡で住宅 3 棟分の発掘調査を行いました（右上写真）。

区画整理事業では、年間を通じて、3 回に分け、上之区画整理地内（道路予定地）の藤之宮遺跡、諏訪木遺跡・上之古墳群、前中西遺跡の発掘調査を行いました。9 月には籠原中央第一区画整理事業内（道路予定地・店舗移転）の籠原裏遺跡、籠原裏古墳群で発掘調査を行いました。昨年度から行っているスマートタウン造成事業地内の在家遺跡の発掘調査は 9 月で終了し、現在は出土遺物や図面の整理作業を行っています。

これまでにない件数の発掘調査に加え、多くの新発見が相次ぎ、熊谷の歴史を知る上での貴重な資料の一部となるでしょう。

### 企画展「遺跡出土ビン展」好評開催中

平成 26 年 1 月 14 日から 7 月 14 日にかけて、江南文化財センターにおいて、遺跡から出土した明治から昭和時代にかけてのガラスビンに関する展示を行っています。展示したビンは、薬品・化粧品、文具類、アルコール・ジュース類、牛乳ビンなど多岐にわたっています。



現在、考古学の世界では、基本的に近現代の出土品は、調査対象から外れています。しかし、どんなささいな遺物でも、「なぜそこにあるのか、いつ、だれがそれを作り、何のために使ったのか」を調べていくと、地域における人々の暮らしが浮かび上がってきます。今回の展示から、身の回りの「ささいなもの」からでも、歴史を知ることができる楽しさを感じていただければと思います。

展示品：薬品・化粧品類

			
1.石丸病院薬ビン	2.ホーカー液ビン	3.レートクリームビン	4.ピオフェルミン薬ビン

## 市内遺跡発掘情報

### 平成 25 年度上之土地区画整理地内遺跡の発掘調査について

市内上之では土地区画整理事業に伴い、事前に発掘調査を行っています。平成 25 年度は、藤之宮遺跡（5～9月）、諏訪木遺跡及び上之古墳群（11～12月）に続き（前号に掲載）、前中西遺跡（1～3月）の調査を行いました。

今回の調査箇所は、遺跡範囲ほぼ中央の南北2箇所に分かれており、南側の調査区では古墳時代の集落、北側の調査区では弥生時代の墓が見つかりました。南側の調査区で見つかった竪穴住居跡は、古墳時代前期（約 1,700 年前）が 4 軒、後期（右上写真、約 1,400 年前）が 16 軒であり、各住居跡から土師器が多数出土しました。北側調査区では、弥生時代後期（約 1,900 年前）の方形周溝墓（右下写真）が 3 基見つかり、一部の墓からは弥生土器甕がまとまって出土しました。



遺跡の出土状況

### 石原古墳群・不二ノ腰遺跡の発掘調査「土師器、須恵器のほかに古銭も出土！」



1 月末から 3 月にかけて市内広瀬地内で、石原古墳群・不二ノ腰遺跡の発掘調査を行いました。分譲住宅建設に伴う発掘で、全部で 3 棟分の住宅予定地の調査を行いました。調査の結果、全部で 5 棟分の竪穴建物跡と数十基のピットと土坑を検出しました。建物跡は土層の識別が大変難しく、掘削する際にはとても苦労を強いられました。しかし、その甲斐もあって保存状態のよい形で遺構が残されていることが確認でき、また、かまども確認され、当時煮炊きに利用していたと思われる土器がほぼ完形の形で確認されました。

遺物は土師器、須恵器が主な出土となり、それらから判断して、今回調査した遺跡はおおよそ 9 世紀代のものだと考えられます。また、出土遺物の中には、建物跡から出土した鉄滓（鉄のくず）や羽口が見られました。羽口とは金属を溶かす時に風を送りこむふいご（送風装置）と炉の間に取り付ける風を送る管です。また、流れ込みによるものだと考えられますが、興味深いものとしては、

古銭（寛永通宝）も出土しました。今年度での整理作業となりますが、先に述べたように鉄の精錬に関連する遺物が出土している点から、鍛冶に関係する集落が存在していた可能性が考えられます。

### ◇平成 25 年度刊行の埋蔵文化財調査報告書

平成 25 年度に刊行した埋蔵文化財調査報告書は、右記の 2 冊です。これらの報告書は、江南文化財センター及び市立図書館で閲覧できます。またホームページ「熊谷デジタルミュージアム」でも公開（PDF 版）していますので、ぜひご覧下さい。

報告書名	所在地	時代
『萩山遺跡』P L ・図版編	千代	縄文、平安、中世
『南方遺跡 II』	千代	中・近世

## 連載 くまがやの古墳群

### ⑧在家古墳群「特異な小石室をもつ古墳群」

在家古墳群は、玉井地区の櫛挽台地北東縁部に立地し、台地に沿って南北に分布する古墳時代後期から終末期にかけての古墳群で、現在 6 基が確認されています。いずれの古墳も、土地区画整理事業に伴う発掘調査により発見されました。

古墳は全て円墳と考えられますが、埋葬施設については、2 種類確認されています。いずれも河原石積みの石室で、いわゆる胴張型横穴式石室と呼ばれるものと、小規模な竪穴系石室です。胴張型横穴式石室は、本地域のこの時期の石室としては良く見られる形態ですが、竪穴系石室については特異な存在といえます。

竪穴系石室をもつ古墳は 4 基確認されていますが、いずれの古墳もおおむね直径

7～10m の小規模な墳丘であり、それに呼応するかのよう小規模な石室が構築されていました。それは、全長が、大きなもので約 2 m（第 5 号墳石室：左写真）、小さなもので約 1 m（第 6 号墳石室：右写真）、いずれも幅が約 0.5 m です。後者については、大人が伸展葬で入れる規模ではなく、子どもの埋葬ないしは大人の火葬骨を埋葬した可能性が考えられます。また、出土遺物も皆無に近く、時期が特定できるものは第 4 号墳周溝から出土した土師器小型壺であり、この土器が示す 7 世紀後半～末が、これら竪穴系石室をもつ古墳の時期と推定されます。



## 文化財センター通信

### ◇星溪園積翠閣ギャラリー展「茶器・茶道具の彩り」

「茶器・茶道具の彩り」展を市指定名勝「星溪園」の積翠閣ギャラリーにて開催しています。星溪園が所蔵する茶器・茶碗をはじめ、六代浅見五郎助造の干支茶碗や、現代日本における新進気鋭の陶芸作家・デザイナーの河原尚子さんが手掛けた白く端正な茶碗も展示しています。また、同ギャラリーでは星溪園を造立し、近代熊谷の発展に大きく貢献した竹井澹如の歴史について紹介しています。どうぞ、ご参照ください。とき：開催中～5月25日（日曜）9時～16時（月曜休園、月曜が祝日時は翌平日）ところ：星溪園積翠閣 入場料：無料



### ◇生業の道具展

江南文化財センターのテーマ展示「民俗資料展」の展示替を行いました。「生業の道具展」と題し、江南文化財センター所蔵の寄贈民具の中から、角樽・芋切機・養蜂箱・歯車型絹糸榨取機、足踏み脱穀機を展示しました。足踏み脱穀機の足踏み体験ができますので、この機会にぜひご覧ください。展示期間は、平成26年7月18日（金）まで（土・日・祝日休館）。



### ◇国宝「歓喜院聖天堂」の文化財説明板を設置

妻沼聖天山の本殿、国宝「歓喜院聖天堂」の文化財説明板を設置しました。平成25年度の歓喜院聖天堂情報発信事業では、パネル展や記念講演会などを実施してきました。その事業の一環として、日本を代表する文化財建造物である国宝「歓喜院聖天堂」を来場された多くの皆様に知ってもらおうと拝殿前に説明板を設置し、更なる啓発を図っています。是非、極彩色彫刻をご鑑賞ください。



### ◇「恋するフォーチュンクッキー（熊谷市 ver.）」で文化財を再発見



江南文化財センターでも撮影が行われた、「恋するフォーチュンクッキー（熊谷市 ver.）」がYouTubeの熊谷チャンネルにて公開されています。

江南文化財センターの他、星溪園、国宝「歓喜院聖天堂」・重要文化財「平山家住宅」・野原の文殊寺・国登録有形文化財「坂田医院旧診療所」・市指定有形文化財「根岸家長屋門」などにおいても撮影が行われ、多くの方々がダンスを披露しています。根岸家長屋門と平山家住宅では各所有者も出演しています。恋チュンを通じて、市内文化財の新たな一面もお楽しみください。

## 文化財探訪

### とうかん山古墳—市内最大の前方後円墳（埼玉県指定史跡：熊谷市箕輪 99-1）



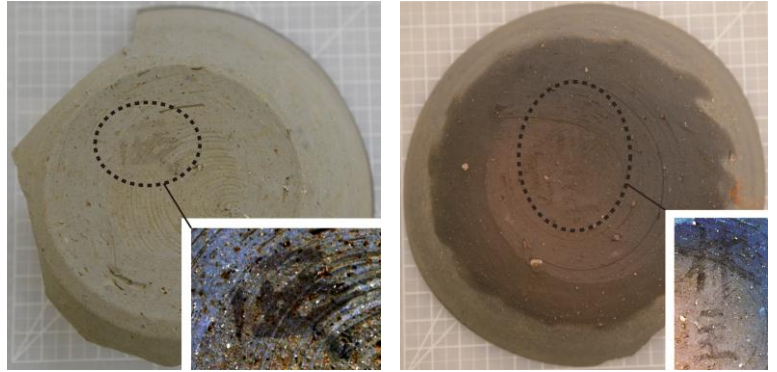
とうかん山古墳は、市内箕輪の台地上に築造された市内最大の前方後円墳です。現在、墳丘周囲に巡る濠は埋設していますが、墳丘の規模は全長75m（前方部長38m、後円部径37m）、後円部の高さは6.2mを測ります。墳丘の一部が削平されていますが、全体的に保存状態が良好なことから昭和62年に県の文化財に指定されています。

とうかん山古墳では、これまで発掘調査が行われたことがないため埋葬施設など詳しいことについては分かっていません。しかし、採取された土師器や円筒埴輪のかけらから6世紀後半の築造と考えられ、同時期の行田市埼玉古墳群瓦塚古墳の規模に匹敵することから被葬者はかなり有力な人物であったと考えられます。

「とうかん山」という名称は、むかし古墳墳頂に小さい祠（稲荷社）があったことから「お稲荷山（とうかやま）」と呼ばれていたものが転化したと考えられています。

## 文化財コラム 古代との遭遇・第14話『墨書土器について① 在家遺跡』

発掘調査では土器や瓦が出土しますが、中には文字や記号がみられるものがあります。へらなどで刻まれたものを刻書、墨や朱で書かれたものを墨書、焼き上げ前にハンコを押したものを押印・刻印などと呼びます。今回は、別府地内の在家遺跡で見つかった奈良・平安時代の土師器や須恵器の墨書について連載してご紹介します。墨書・刻書土器は県内でおおよそ4,900点確認され、当市では1,300点を超え、県内でも有数の出土状況といえます。文字が書かれた意味は、色々と考えられますが、主に場所や所有を示すもの、祭祀行為に関わるものなどとされています。文字自体がもつ意味は色々と考えられます。何故なら、一文字または二文字程度のものがほとんどであり、様々な憶測が可能だからです。また、現在では通常見られない文字なども書かれています。則天文字と呼ばれる特殊な文字は、中国が唐王朝であった時代に国号を周と改めた則天武后により創られた文字ですが、墨書土器に散見されます。このほか独自の字形などもみられバリエーションに富んでいます。いずれにしても、墨書土器は在地における識字層の存在を示しています。このことは、律令国家の形成と運営に深く関わっています。（※画像の拡大した文字は色調補正等をかけて見やすくしてあります。）



### ◇ 市政宅配講座で文化財を学ぼう。（問合せ先：熊谷市広報広聴課 048-524-1156）

講座名	内容
ようこそ「江南文化財センター」へ わくわく土器ドキ石器講座	文化財センター内の展示品・出土品について解説します。 市内の遺跡から発掘された現物の出土品を紹介しながら、熊谷の古代について解説します。
名勝「星溪園」を味わう	名勝「星溪園」において、建物、庭園について説明します。
「伝統芸能の世界」今昔物語	無形民俗文化財と地域の伝統芸能をDVD映像で説明します。
中山道をめぐる熊谷の歴史と文化財	中山道と熊谷の歴史的な関わりについて説明します。
熊谷歴史たてもものレビュー	文化財建造物について解説します。（国宝「歓喜院聖天堂」など）
指定文化財「絵画」への招待	文化財「絵画」について解説します。（華山・晴湖・恒友など）

### 編集後記

平成26年4月20日、重要文化財「平山家住宅」にて、春の祭典コンサートが開催されました。一年前、地元市民を中心に更なる建物の公開活用に向けて、平山家住宅を活用して楽しむ会が発足し、様々な行事を開催しています。今回のコンサートでは、埼玉県立秩父農工科学高等学校の秩父屋台囃子保存部、新島学園聖歌隊、一筆会、青梅リコーダーオーケストラによる演奏の他、落語や地元の伝統行事である団子投げが行われました。250名を超える来場者があり、茅葺屋根や室内の木組み構造を眺めながら、美しい響きに耳を傾けていました。国内の文化財建造物については、美術工芸品のように保存に重点を置く事例もありますが、積極的な公開活用によって多くの関心を持ってもらう事例も多くあります。文化財の保存活用について研究を続けていきたいと思えます。



発行：平成26年4月25日

熊谷市立江南文化財センター（熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係）

〒360-0107 熊谷市千代329番地

電話 048-536-5062 FAX 048-536-4575

メール c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp

HP：「熊谷デジタルミュージアム」<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/index.htm>

文化財の紹介、ブログ「熊谷市文化財日記」、 「BUNKAZAI 情報」 カラー版などを豊富に掲載